

## タウンミーティング あったかいまち「ふじみ野」を目指して

日 時 平成27年2月21日（土）午後6時30分～8時10分  
会 場 大井武蔵野町会（武蔵野分館）  
天 気 くもり  
参加者 31人



### 主な意見等

参加者 合併して10年、市長にはいろいろやっていただいているが、議員の削減がされてないのが残念です。所沢・川越あたりは人口約33万人で議員数約36人、1万人超に1人ということであれば、（ふじみ野市は）12人か多くても15人でいいのでは。収入が見込めない中でこういったことも努力してほしいと思います。

市 長 おっしゃる通りだと思います。議員の数は議会で決めるので、私が言えるところではないのが難しいですが、これまでも24人から21人になっているところです。それ以前、合併する当時は両市町合わせて44人だったのが合併したことで24人ですから、20人減ったのは合併効果といえると思います。ただ問題は現在10万都市で、実際は11万3千人まで増えてきたのですけれど、これどんどん減らすというのは、例えば10人や11人になってしまうと、それぞれの委員会という専門分野が機能していかなくなってしまうのです。議員報酬額も皆さんの税金で賄っているので抑えていく必要があるのですが、逆にいうと、人数の問題はご指摘のとおりですが、新たに立候補しようとする人が非常に少ないのが現状です。特に若い人が出られる状況ではないのですね。農家の方や自営業の方は時間が作りやすいのですが、じゃあ会社員が会社を辞めて地方

議会に出られるかというのと、なかなかそうではないですよ。議会は毎日あるわけではないのでアルバイトをしながらでもできるかもしれませんが、全国的に見てもふじみ野市は議員報酬も少ない方です。議員の報酬審議会でも若干報酬の上乗せが決定しましたが、何でもかんでも減らせばいいというのではなく、民意を反映させるための代弁者が議員なので、数の問題と同時に、資質というか、「まちのために」という志を持って出てきてくれる人が少しでも増えてくれるといいなと思っています。数の問題につきましては、私も同感でございます。

参加者 子育てにはふじみ野市が最適というスローガンを見たことがありますが、先日市報を見たら「保育所は耐震問題で壊します」と書かれていました。そのあとはとりあえず発表されていないので、若い人たちはすごく困ることだと思うのですが。そのあたりはどうお考えですか。

市長 保育所のお話ですが、我々行政の発信が少なくて皆さんに情報が伝わっていない一方で、反対するグループの方がビラなどで宣伝しています。実は国の耐震化促進の法律で保育所の場合、基準が延床面積500㎡以上の2階建てが法の対象になっていますが、少しの違いで診断しなくていいということにはなりませんので、全ての保育所で耐震診断を行いました。その結果、亀居保育所・西保育所・亀久保保育所・鶴ヶ岡保育所が非常に悪いという事実が分かりました。補強して使えないかと議論もしてきたのですが、40年以上経っている建物、これにお金をかけて耐震補強すると、建て替えるのと同じ金額がかかってしまうことが分かりました。子ども優先の政策を打ち出している中で、この4月には新しい認可保育所3園の開園を予定しています。待機児童対策として283名の定員を増やす予定でしたが、一番悪い亀居・西保育所の2園を、この3月をもって廃止し、新たにできる施設に優先的に移っていただくことを進めてまいりました。先日、保育所の1次選考が終わりましたが、この2園の子どもたちは全て保護者の希望する保育所に入所できることになりました。そして、来年は新たに4園作ります。そして400名余りの定員増を図ります。2年連続で約600名の定員増をする自治体は、県内でもまずないと思います。亀久保保育所と鶴ヶ丘保育所も耐震診断の結果はよくありませんので、新たにでき

る施設に移っていただこうと考えています。

参加者        それをなぜ市報に書かないのですか。

市 長        市報にも記載してあるのですが、少し分かりづらい内容だったかもしれませんね。

参加者        反対意見ばかりが目立ちますね。

市 長        そうですね。反対される方が「300人も待機児童がいる」と言っていますが、今回1次選考で漏れた人は212人です。300人というのは去年の12月現在の数字です。それで、その212人の中には、「入所が承認されなかった」「入所できなかった」という証明をもらって会社の休職期間を延長されるケースの方や、家庭保育室で受け入れられている方なども含まれています。保育が必要だと判定された方から入所決定をしていくのですが、最終的には、昨年では6～7人の方がどうしても入れませんでした。平成24年には待機児童ゼロを達成していますが、ただ同じく待機児童ゼロを達成した横浜市と同様、「ふじみ野市に行けば保育所に入れる」という情報が広まって、翌年にはまた希望者が増えてしまい、待機児童が生まれてしまうという状況です。ではどんどん保育所を作ればいいのかというと、ふじみ野市の人口シミュレーションでも、何年かすると人口が減少する傾向にあるので、難しい問題です。また、「公立」の保育所は、以前は作る時も運営にも国から補助金が出ていたのですが、実は今、「官から民へ」の流れの中で公立の保育所を作ろうとすると、一つ作るのに約3億円、それを皆さんの税金だけで賄わなければいけません。社会福祉法人等民間でしたら、国・県・市がそれぞれ補助金を出すので、市の持ち出し分は約5千万円で建てることができます。運営費も、公立には補助金は出ませんから、お子さん一人あたりの経費は約140万円、これが民間なら約40万円です。民間なら公立1人分の経費で3人のお子さんを保育できますので、結果として受け入れ人数を増やすことができます。こういったお話を市報等で、皆さんになかなかきちんとお伝えすることができていないことは行政の責任なのですが、保育所で子どもを保育するには、保育には関係ない人の税金も使っているということ、そしてどうやって保育を維持していくのかということ、当事者や反対

運動をされている方々にもご理解いただきたいと思います。情報不足で申し訳ありません。

参加者 西原小学校もだいぶ児童が減ってきていますが、学区を考える場合に、ヤマハの跡地に住宅ができるなら、西原小の学区にしていきたいと思います。

市長 まさにそうですね。学区の見直しを迫られているのは事実だと思います。この問題については教育長とも話しているのですが、これも本当に大変な問題です。児童生徒数が減っている学校と逆に増えている学校の学区を動かした方がいいと思いますが、境目にお住まいの方から「なぜ今学区を見直すのか」「うちの子はこちらの学校に通わせたかったのに」と反発されることもあります。例えば新設した東台小学校は、東原小学校の児童増加対策でもあったのですが、現実には開校以来児童数が減り続けて、今240人位です。一方で東原小はマンモス化したままです。やはり先ほどのご意見のとおり、児童数のばらつきは出ていますので、いろいろなご意見は出ると思いますが、学区の見直しは取り組んでいかなければならない状況だと思います。来年度は教育委員会制度が新しくなります。今までは行政が教育に介入してはいけないといわれてきましたが、政治的に偏りがなければ市長としての責任を教育に対しても当然持たなければなりません。ですので、その席で学区の見直しについて意見を言っていきたいと思っています。

参加者 ヤマハの跡地はどうなる予定でしょうか。

市長 おそらく民間の住宅開発になっていくと思います。

参加者 新年度予算案を新聞で見ました。教員住宅（みほの地区）の跡地を公園にすると書かれていましたが、この地域は市街地から外れた過疎的な地域です。畑や市街化調整区域で家が建てられないこともあるのでしょうか、この辺りももう少し活用できるようにならないかと、そのような政策は考えていらっしゃいますか。また雨水問題についても、明確にしていきたいと思います。

市長 県の教職員住宅については、もう使われていないということで、県から市に使用の打診がありました。有利な価格で購入できますので、今2つある公園が借地ということもあり、その借地はお返しして、避難場所等のことも検討したうえで市の公園を作る計画にしました。また雨水対策は、貯水池を造って解決していきます。来年度は1か所、土地を購入して造っていきます。この地域には4か所の貯水地が必要と考えています。下水道を整備して雨水を砂川堀に流すことも考えられるのですが、莫大な金額と期間がかかるため、貯水池と、併せて皆さんのお宅で設置可能なところにはご協力をいただく各戸貯留事業に取り組んで、全体の雨水を減らしていこうと計画しています。各戸貯留については今回採択して進めさせていただき、100戸ほど作ることにになります。こうした計画を進めながら雨水対策に取り組んでいきたいと思っています。これからも地域の課題に取り組んでいきたいと思っています。

参加者 住宅が建たないこと（市街化調整区域）の緩和はありますか。また農地の転用や土地の販売など、市が行うのではないのでしょうか。けれども、そういったことへの配慮はありますか。

市長 これも簡単なことではありません。都市計画税の関係等、いろいろなことが影響してきます。市街化エリアの拡大も、緑ヶ丘や亀居の地区などは暫定逆線引きと言われていましたけれども、最終的には地域住民の意向で白地（＝市街化調整区域）に戻りました。先ほどの本下水の話でしたら、例えば調整区域を全体の整備計画から外せば、調整区域で合併浄化槽を入れる時に補助金が出るので、そのことも検討しましたが、最終的な行政の負担と地域の方の受益者負担とを考えた時に本下水の計画でもいけると判断したので、計画は変えずに整備をしていきます。しかし、やはりかなりの額の財源が必要になってくると、農家の方のように敷地が広いと受益者負担もかなりのものになってしまう、またそれが地域によって変わってしまうなどの問題があるので、不公平感がないようどこまでできるかということだと思います。調整区域を市街化区域に変更するというのも、なかなか簡単にはいかないところだと思います。

参加者 西原小学校に向かう道で関越道のトンネルを出たところの右側の家の塀の脇が、側道より低くなっています。児童の登下校時は指導員さんが立ってくださっているので子どもたちもスムーズに歩けますが、それ以外のときには、急に曲がるとひっくり返る子がいたり、夜間パトロールでつまづいたりする人がいます。あそこを平らにさせていただくことはできませんか。だいぶ前からお願いしています。トンネルの両側出口にも水が溜まったりしています。市役所の車がパトロールしているようですが、見落とされているようです。

市長 承りました。現場を見て確認いたします。今すぐには回答できませんが、どう修復できるか調べさせてもらいます。

参加者 窪みを平らにさせていただくことを先にお願します。

市長 現場を見て検討しないと何とも言えないので、すぐ担当に検討するよう伝えます。まず現場を見るよう話をします。

参加者 大井浄水場の前の通りには水道の大動脈が入っていて、沿道の方々から、振動がすごいと苦情がきています。道路がかなり傷んでいて、そこに埋設されている水道管の布設替えなどは進んでいるのでしょうか。また、大型車の通行制限の標識などをもっと大きく出していただきたいです。

市長 布設替えの件については具体的な場所もありますので、あらためて確認いたします。

参加者 以前に相談した、西原のバス停の整備の関係は、どんな状況になっていますか。

市長 市の循環バスについては、毎年約3千万円の赤字を出しているバスなので、バスを小型にする、またデマンド交通を導入するなどして、市の公共交通の見直しを進めています。バス停のことも含めて検討していきます。

参加者 多目的グラウンドの使用料ですが、例えば1時間全面3,000円、半面1,500円と書かれていました。もう少し減額できないでしょうか。例えばグラウンドゴルフなどはお年寄りがお金を出し合ってやっています。

市長 他の施設の使用料も適正にしようと思直しをする予定です。多目的グラウンドの金額も一見高いように聞こえますが、例えばグラウンドゴルフもソフトボールも、一人でやるものではないと思います。10人でやれば300円ずつ、20人でやれば150円ずつで済むと思うのです。額面だけでなく、大人数で使うことも考えた上で、多くの皆さんのご理解をお願いしたいと思います。本庁舎の整備にしても、正直申し上げますともう少しお金かけてもよかったですらいなのですが、かなりコストを抑えて作ってあります。全部を建て替えた場合の約半値で建てました。現在も各課の引っ越しに次ぐ引っ越しと、工事中のものすごい音で市民の皆さまにもご迷惑をおかけしていますが、やはり税金を使うことを考えるとお金はかけられませんでした。使用料が高い、減免をとおっしゃる気持ちも分かるのですが、皆で協力していかないと難しいかなと思います。申し訳ない限りなのですが、ぜひご理解いただけるよう、グラウンドゴルフの皆さんにもお伝えいただければと思います。

参加者 今、公民館の話が出ましたが、上福岡地区と大井地区は運営方法が違います。上福岡地区は自治会館ということでお金を取って市民の方にも負担していただいている訳ですけれど、ゆくゆくは大井地区の分館も町会・自治会に、という話も来ているようですが、その話は具体的にどう進んでいますか。

市長 まだはっきりは進んでいません。決して分館方式をとっていることが悪いことではないと思います。合併はしましたがたまたまやり方が違ってただけで、旧上福岡市では、土地は市が提供しましたが、自治会でお金を集めたり補助金を使ったりしながら施設を作りました。維持も自分たちで運営しています。大井地区は公民館の分館という位置づけで、当時は補助金などの関係もあって、公民館の分館を増設していくなら町の負担も抑えられるし、周りに風俗的

な営業を行う建物もできないなどのメリットを考えての選択だったと思います。どちらが本当にいいのかということになったとき、例えば上福岡地域が自治会ごとで維持していることが、将来的にはやっていけなくなるかもしれません。というのは、町会への加入率がどんどん落ちているという状況で、地域の人たちでどこまで集会施設を維持していけるのか、という課題があると思います。ただ、この公民館の分館を集会施設として使っていくのであれば、先ほどから言っている受益の部分で、やっぱり皆で何とかしていかなければならないのではないかと考えています。使う人からいただく利用料を維持費に蓄えつつ自治会からも多少の負担はして、市からも補助を出して、協働という意味で行政も一緒になって維持していかなければ、これからいろいろな面で公共施設を維持できなくなると思います。

参加者 関越道のトンネルをくぐる大井西中学校の通学路が、部活帰りの時など暗いと思います。照明が少なく、地域の見回りの時も暗くて怖かったです。

市長 分かりました、現場を見て確認します。

参加者 大井西中学校の東（裏）門の所ですが、道幅が狭くて、ヤマの中を歩いています。車なども通りますので、もう少し歩きやすくしてもらいたいです。

市長 分かりました、そちらも現場を確認します。

参加者 おおい祭りの時に七夕まつりのうちわを配っていました。おおい祭りのことがどこにも印刷されていなかったのも、裏面にでも入れて欲しいです。

市長 観光協会が作ったものなのですが、でもいいご提案だと思います。おおい祭りの実行委員会に提案してみます。



参加者 防犯ののぼりが道路に立っていますが、ぼろぼろになっているものが目立ちます。見直しはされていますか。町会がやるべきことですか。

市長 設置・管理しているのが市のものか、町会のものか、教育委員会のものかが分かりませんが、ぼろぼろになって見苦しいのぼりなど見掛けられたら、地域のご協力でほどいていただいたり、市の方で回収に伺ったりしたいと思います。